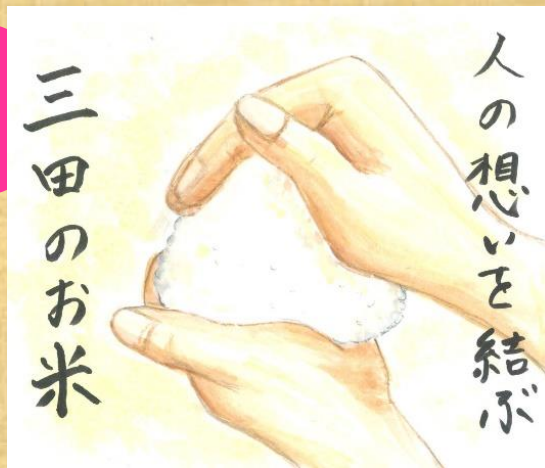


三田市の学校・園における 食育推進計画

さんだっ子 食べチャオ! 食育推進計画

～ デジタル食育×リアル体験 ～

【2024年度～2028年度】



三田市教育委員会



～ 目 次 ～

第Ⅰ章 計画の策定にあたって	・・・・・・・・	3
1 計画策定の趣旨		
2 計画の位置づけ		
3 計画策定の背景		
(1) SDGs との関連		
(2) 「デジタル食育×リアル体験」による食育の推進		
第Ⅱ章 学校・園の「食」をめぐる現状	・・・・・・・・	5
1 食生活の状況		
(1) 幼稚園の状況		
(2) 小・中学校の状況		
2 学校・園における食育の推進状況		
3 現状からみえる課題		
第Ⅲ章 計画の基本的な考え方	・・・・・・・・	9
1 基本理念		
2 計画の目標		
(1) 基本目標		
(2) めざす子ども像		
第Ⅳ章 計画の展開	・・・・・・・・	11
1 食育推進に向けた役割		
(1) 学校・園の役割		
① 学校・園全体で取り組む食育の推進		
② 学校給食を生きた教材として活用した食育の推進		
地域の特色を生かした学校給食について		
(2) 家庭の役割		
(3) 地域の役割		
(4) 行政の役割		
2 学校・園、家庭、地域、行政が連携した食育の推進	・・・・・・・・	14
“食べチャオさんだ！” 食育推進事業について		
食育のキャッチフレーズ		
第Ⅴ章 計画を推進していくために	・・・・・・・・	15
1 食育の目標設定		
(1) 食育の視点		
めざす子ども像 食育の3つの視点		
(2) 具体的な食育の目標設定		
<幼稚園、小・中学校における発達段階に応じた食育の目標例>		
2 食に関する指導の全体計画の作成	・・・・・・・・	17
(1) 食育（食に関する指導）の全体計画①		
(2) 食育（食に関する指導）の全体計画②		
(3) 実態に応じた様々な目標の設定例		
3 めざす子ども像に沿った具体的な取組（例）	・・・・・・・・	23
4 デジタル食育の取組（例）		
(1) 動画配信を活用した栄養教諭の実践事例		
(2) デジタルコンテンツを活用した各教科等での学習の取組例		
5 食育実践の評価		
(1) 評価の考え方		
(2) 評価の実施と進め方		
○参考資料	・・・・・・・・	30
三田市食育推進計画、食に関する指導の手引、		
学習指導要領（文部科学省）《小学校》《中学校》、幼稚園教育要領 等		

第 I 章 計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨

近年、食生活が豊かになった一方で、偏食や欠食など食の乱れによって心身の健康への影響が懸念されています。生涯にわたって心身ともに健康に過ごし、豊かな人間性を育てていくためには、学校・園における食育（※1）の充実が重要であり、子ども自らが食の大切さを実感して学ぶことが求められています。

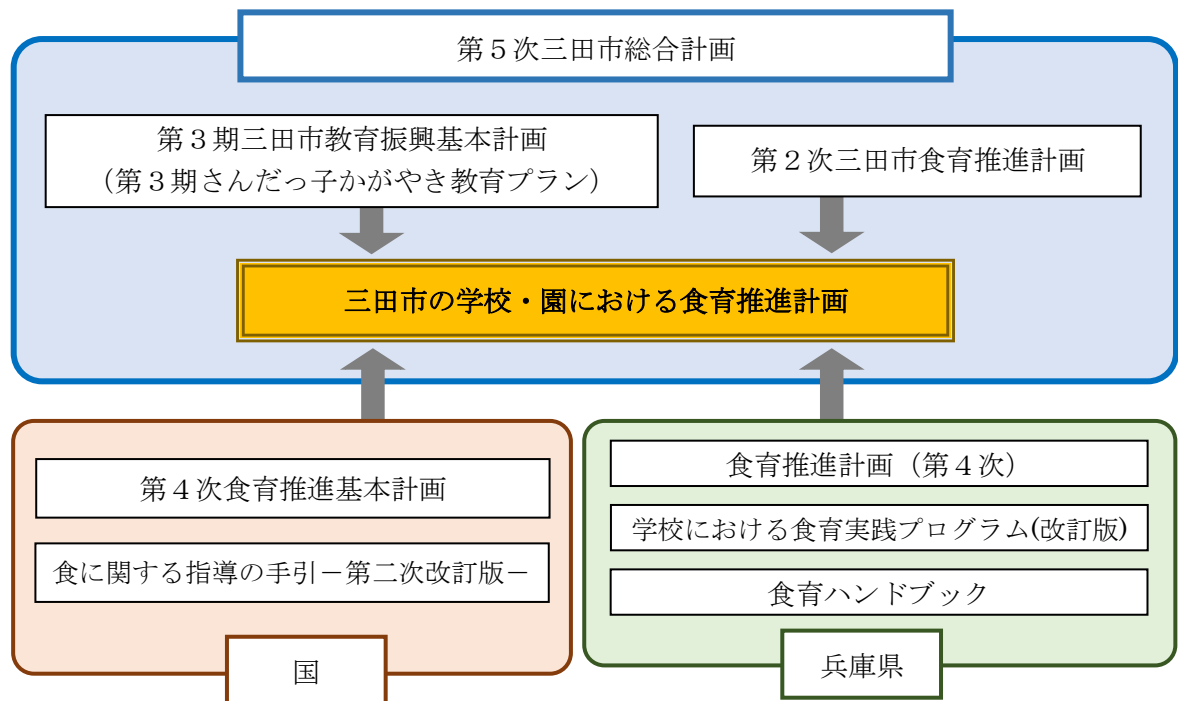
本市教育委員会では、平成 26 年（2014 年）に 5 年間の計画として「三田市の学校・園における食育推進計画」を策定し、令和元年（2019 年）には新たに 5 年間の計画として改訂しました。この計画に基づき、幼稚園・小学校・中学校の 11 年間を通して組織的・計画的・継続的に食育を推進し、地域や家庭と連携を図りながら子どもたちの「未来を創造し、心豊かに生きる力」を育成してきました。

これまでの学校・園における取り組みをふまえ、また、本県及び本市の食育推進計画を受け、さらなる食育の充実に向けて、「三田市学校・園における食育推進計画（2024 年度～2028 年度）」を策定し、取組を進めていきます。

2 計画の位置づけ

- ①この計画は、「第 5 次三田市総合計画」による、「第 3 期三田市教育振興基本計画」ならびに「第 2 次三田市食育推進計画」に基づく、学校・園における食育推進計画として位置づけます。
- ②この計画は、農林水産省が策定する「第 4 次食育推進基本計画」、文部科学省が策定する「食に関する指導の手引—第二次改訂版—」、兵庫県「学校における食育実践プログラム（改訂版）」「食育ハンドブック」との整合性を図りつつ、食育を体系的に推進する計画とします。

— 図：計画の位置づけ —



- ③この計画の実施期間は、2024 年度から 2028 年度までの 5 年間とします。

（※1）食育……＜食育基本法より＞ 生きる上での基本であって、知育・徳育・体育の基礎となるものであり、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる。

3 計画策定の背景

(1) SDGs との関連

2015年、国連において「持続可能な開発目標（SDGs）」が全会一致で採択され、世界規模のアジェンダ（検討課題）の解決に向けた17の目標に基づく取組が行われています。また、日本政府の推進本部においては、官民連携の深化が求められています。

SDGsは「食」の分野にも大きく関わりがあると考えられます。教育においては、学校・園、家庭、地域、行政が連携し、学習活動や啓発活動を通して取り組んでいく必要があります。世界規模の取組に対し、一人一人ができることには限りがありますが、世界的取組を行う上で一人一人が意識して行動していくことは不可欠です。日頃の食生活に結び付けて考えることや、食品の生産や消費について正しく理解することは、SDGsに向けた取組につながります。

よって、食に関する指導においても、以下の目標との関わりがあることを念頭に置き、本推進計画を策定します。



(SDGs 17の目標の2・3・4・11・12・17)

(2) 「デジタル食育×リアル体験」による食育の推進 ※2

近年のICTの一層の充実により、デジタルコンテンツ等を活かした新たな取組が可能となっています。中でも、例えば次のようなICT活用は、食に関する教育活動においても非常に有用です。

①オンラインミーティングを利用した他者とのコミュニケーション

(例：生産者と消費者がつながる活動、企業の講義などを受ける活動)

②デジタルコンテンツを利用して知識を獲得する活動

(例：動画の閲覧、ウェブページやアプリを利用した調べる活動)

③オンラインツールを利用した交流活動

(例：自らが制作した料理や農作物についての発信、食に関する意見の交流)

ICTを用いた活動は、学校・園の立地環境や感染症の流行等にも左右されにくい特長があります。ただし、食育においては、味覚・視覚・嗅覚といった五感で感じる体験の影響は大きく、とりわけ給食などの実際に食べる行為の食育における重要度は非常に高いと言えます。よって、食に関する指導にあたっては、「デジタル食育」と「リアル体験」の双方を、学習内容や学習効果から判断して使い分け、より有効な実践を模索することに留意する必要があります。



リアルな体験を
通じた食育



ICTを
用いた食育



リアル体験とICTの
双方を活かした食育

(※2) デジタル食育・・・デジタル技術を活用して、効果的に行う食育活動のこと。農林水産省からは、推進に向け「デジタル食育ガイドブック」（令和4年4月15日）が発行されている。



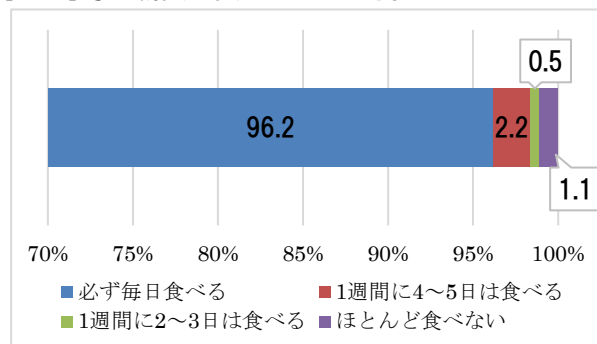
第Ⅱ章 学校・園の「食」をめぐる現状

1 食生活の状況

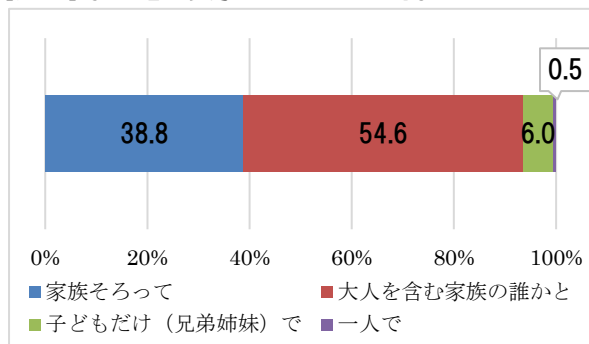
(1) 幼稚園の状況

令和4年度三田市幼児食生活実態調査報告書
(市内園児 214 名対象、内有効回答数 184) 一部転載

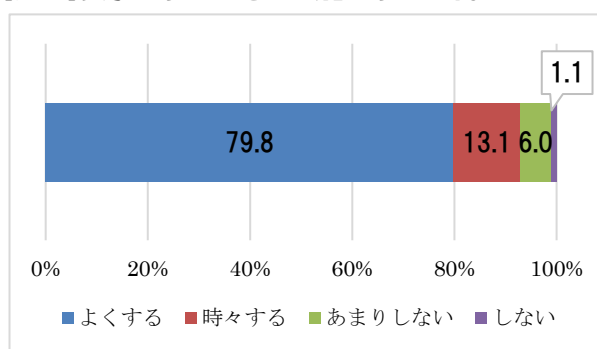
[図1] 毎日朝食を食べているか調査



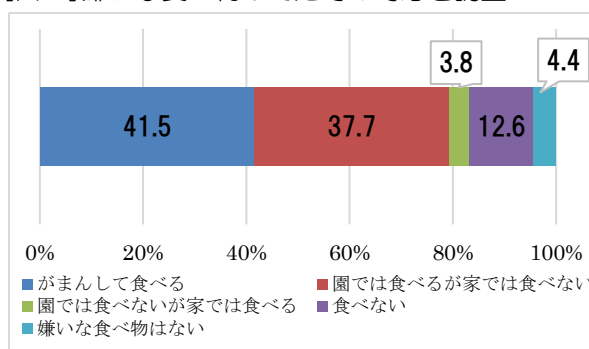
[図2] 家で誰と食事をしているか調査



[図3] 食事をするとときに会話をするか調査

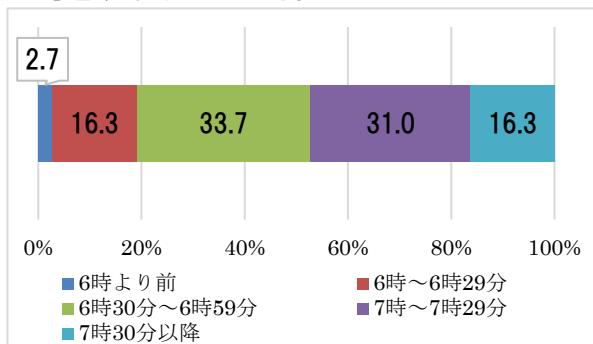


[図4] 嫌いな食べ物がでた時の対応を調査

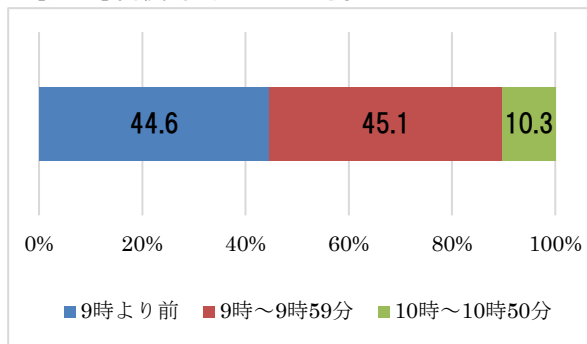


- ・ 朝食を必ず毎日食べる子と1週間に4~5日は食べる子が合わせて98.4%であり、ほとんどの子に朝食を食べる習慣がついている [図1]。
- ・ 家族そろってまたは大人を含む家族と食事をしている子が93.4%である [図2]。食事時の会話をよくするまたは時々する子は92.9%で、ほぼ同率となっている [図3]。
- ・ 嫌いな食べ物がでた時の対応について“嫌いな食べ物は無い”と“がまんして食べる”は合わせて45.9%である [図4]。それ以外の54.1%の子と比較すると“ゆっくりよく噛んで食べる”“食事の時に「いただきます」「ごちそうさま」を必ず言う”“食事の手伝いをいつもする”子の割合が高い。

[図5] 起床時刻について調査



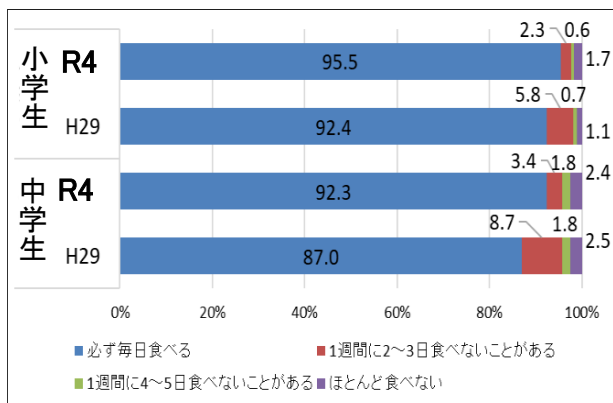
[図6] 就寝時刻について調査



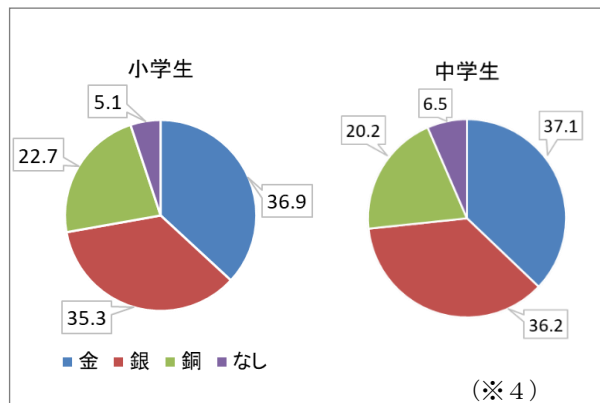
- ・ 幼児の起床時刻は7時30分より前に起床するが83.7%であり [図5]、就寝時刻は9時台が45.1%、次いで9時前が44.6%である [図6]。他の項目との関連性をみると、就寝時刻が早いと起床時刻が早く、起床時の機嫌が良く、食事内容のバランスが良い傾向がみられる。

(2) 小・中学校の状況 (市内小学校5年生及び中学校2年生 1,978名対象、内有効回答数 1,665)

[図7] 朝食の喫食率の年次推移 (%)

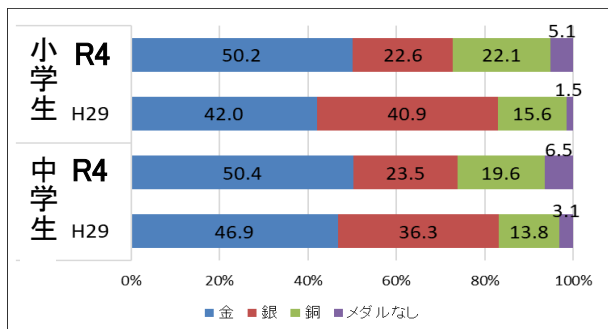


[図8] 朝食の食事バランス (※3) (%)

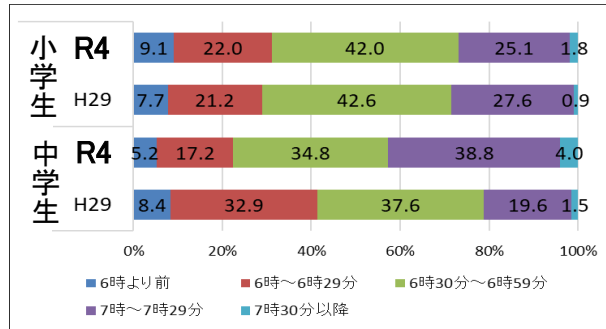


- 朝食について、“必ず毎日食べる”は小学生95.5%、中学生92.3%である。“ほとんど食べない”は小学生1.7%、中学生2.4%となり、経年比較では喫食率が増加している [図7]。
- 朝食の食事バランスについては、3つをそろえて食べる子(金に区分)は、小・中学生ともに3割を超えている。ただし食べない子(なしに区分)も、ともに5%を超えている [図8]。

[図9] 食事バランスの年次推移

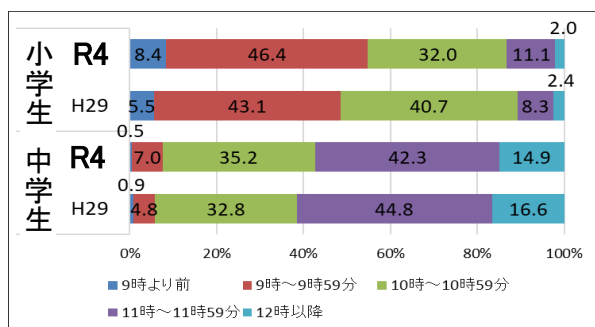


[図10] 起きる時刻の年次推移

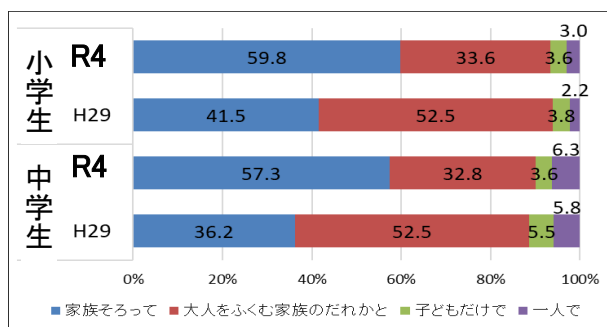


- 小・中学生ともに食事バランスがくずれてきている傾向がみられる [図9]。
- 起きる時刻は6時台が半数以上をしめている。経年比較をすると中学生において7時以降に起きると答えた子が21.7%増加した [図10]。

[図11] 寝る時刻の年次推移



[図12] 共食(夕食)の年次推移 (※5)



- 寝る時刻をみると中学生は23時以降に寝ている子が57.2%と前回より減少している [図11]。
- “家族そろって”または“大人をふくむ家族のだけかと”夕食を食べる「共食(※5)」は小学生では減少し、中学生では増加している [図12]。

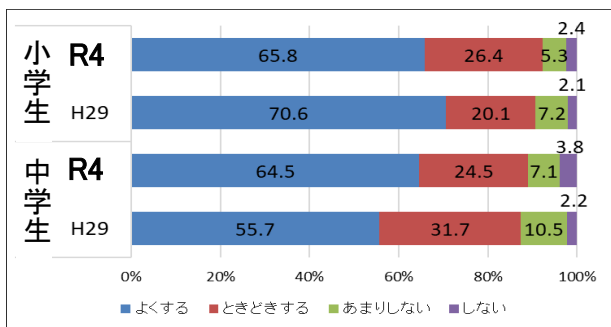
(※3) 朝食のバランスとは、主食+主菜+副菜の3つがそろった食事のことで、主食は、ごはん、パン、めん類など、主菜は、主に魚・肉・大豆製品・卵などの食品を利用した中心となるおかず、副菜は、主に野菜を利用したおかず。

(※4) 金・銀・銅……金：主食+主菜+副菜の3つがそろった食事、銀：主食・主菜・副菜のうち2つがそろった食事、

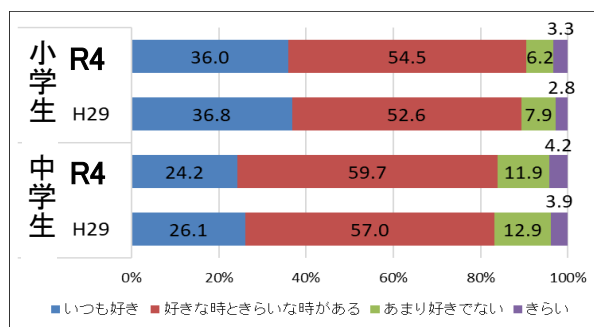
↑ 三田の食事バランスの区分 銅：主食・主菜・副菜のうち1つしか食べていない食事のこと。

(※5) 共食……家族といっしょに食べる、食事を共有すること ⇔ 孤食(一人で食べる)

〔図 13〕 食事中会話をしている頻度の年次推移

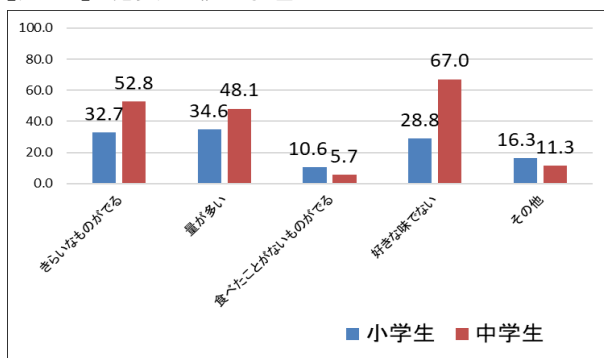


〔図 14〕 給食の好き嫌いの年次推移

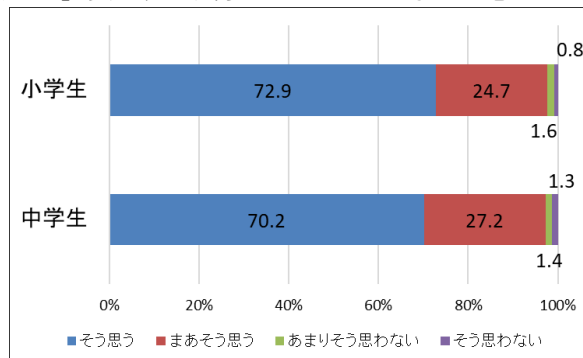


- ・ 食事中の会話をよくしている子が多い〔図 13〕。
- ・ 給食が“いつも好き”または“好きな時ときらいな時がある”の回答が、小中学生共にわずかに増加している〔図 14〕。

〔図 15〕 給食が嫌いな理由

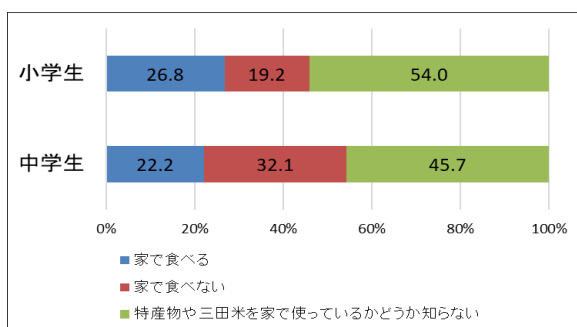


〔図 16〕 食べ物を残すのをもったいないと感じるか

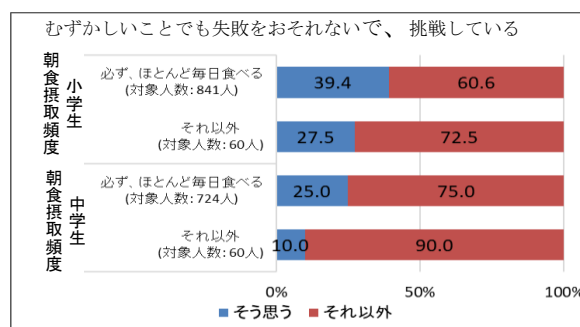


- ・ 給食が嫌いな理由において、小学生では“量が多い”が多く、中学生は“好きでない味”や“きらいなものがでる”など、味覚に関する理由が多くみられる〔図 15〕。
- ・ 食べ物を残すことがもったいないと思うに“そう思う”と答えた子は小・中学生ともに7割を超えている。“そう思わない”は、どちらも1%程度である〔図 16〕。

〔図 17〕 三田の特産物や三田米を家で食べていますか



〔図 18〕 自己効力感(※6)と朝食の関連



- ・ “家で食べる”のは、小学生で26.8%、中学生で22.2%であり、約半数（小学生54.0%、中学生45.7%）が“特産物や三田米を家で使っているかどうか知らない”と答えている〔図 17〕
- ・ 必ず毎日、またはほとんど毎日朝食を食べていると答えた中で、自己効力感があると答えた小学生が4割程度いる〔図 18〕。

（※6）自己効力感……自分が、ある結果を生み出すために適切な行動を遂行できるという確信をどの程度持っているかを認知すること。自己効力感を通して、人は自分の考えや、感情、行為をコントロールしている。

※平成 29（2017）年度「食育アンケート」と令和 4（2022）年度「三田市児童・生徒食生活実態調査」より一部転載

2 学校・園における食育の推進状況

幼稚園（以下、認定こども園を含む）においては、野菜の栽培・収穫体験や自分たちで調理し食す等、食べる喜びや楽しさを味わい、食の大切さに気づき、進んで食べようとする気持ちを育てる取り組みを進めています。小・中学校においては、地域（校区）の特色を生かし「食に関する指導の全体計画」にそって様々な教科や領域で食育を実践し、栽培・調理の体験学習等を通して食の大切さを学んでいます。また、毎日の給食時には、三田産農産物や行事食・郷土食を取り入れた学校給食を生きた教材として活用し、食に関する指導を実践しているところです。

さらに、家庭・地域への啓発として、学校園便りや学年通信等で食育活動を情報発信し、連携・協働できる体制作りを進めています。

3 現状からみえる課題とまとめ

[食に関する生活習慣・健康状況]

- ・ 心身の健やかな成長には、規則正しい食習慣や生活習慣が密接に関連していることがわかります。早寝、早起き、朝ごはんの生活リズムを整えるはたらきかけが重要です。
- ・ 朝食は食べているが、主食・主菜・副菜をそろえて食べる人は多いとは言えません。また、バランスよく食べる習慣が、体の調子を良好にし、自己効力感を高めると考えられています。
- ・ 給食を「美味しくない」「嫌い」と答える子どもは少なく、ほとんどの子どもは残すことをもったいないと考えていることから、食品ロスの観点からも食育を進めていくことが大切です。
- ・ 食事を人と一緒に食べ、楽しむことで、会話も多くなり食事のあいさつなどの生活習慣が身につくやすきことが考えられます。食への興味関心を高め、コミュニケーションや食の楽しさを実感できる場を作ることが大切です。

[農・食に対する意識]

- ・ 郷土愛を育むために、給食に三田産農産物を積極的に取り入れふるさと三田の産物にふれる機会を増やしたり、地産地消についての情報を活用したりして、より身近に感じられるようはたらきかけることが大切です。
- ・ 食文化を次世代へ継承していくため、だしを生かした和食の給食による味覚教育を行い、行事食に触れる機会も充実させることが大切です。
- ・ SDGsに掲げられている「持続可能な社会」を実現させるため、食品ロス削減を給食でもはたらきかけることが大切です。
- ・ 食が多くの人に支えられていることを考えることは、食に関心をもち、食に対する感謝の気持ちを持つことにつながります。食から環境を意識し、食べ物を無駄にしない取組が大切です。

[食育の取り組み]

- ・ 学校・園の食育推進計画に基づき、家庭や地域、関係機関と連携を図りながら食育の推進に取り組んでいます。今後は、デジタル化など「時代のニーズ」に応じた食育を進めながら連携体制を継続していくことが重要です。
- ・ 食育推進計画や学校・園の食育計画の目的との整合性を図りながら、給食時間や食に関する指導を継続的に実施し、さらに、「新しい生活様式」に即した家庭や地域に広く発信していくことが大切です。

[三田市学校給食のあり方についての答申概要]

学校給食運営協議会の答申に係る課題より

- ・ 給食内容の充実
 - 栄養価の確保とバランスの保持、子どもたちが残さず食べることのできる献立の工夫
 - 地産地消の推進
 - 安心安全な食材の使用（減農薬・減化学肥料食材の使用推進・確保）
- ・ 「アレルギー物質除去食」の調理可能な施設・体制の推進

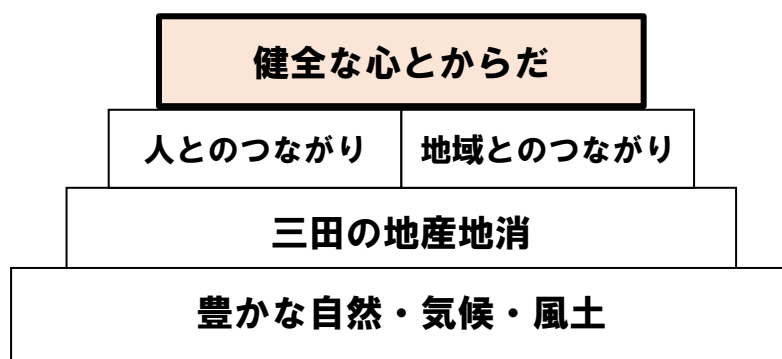
第三章 計画の基本的な考え方

1 基本理念

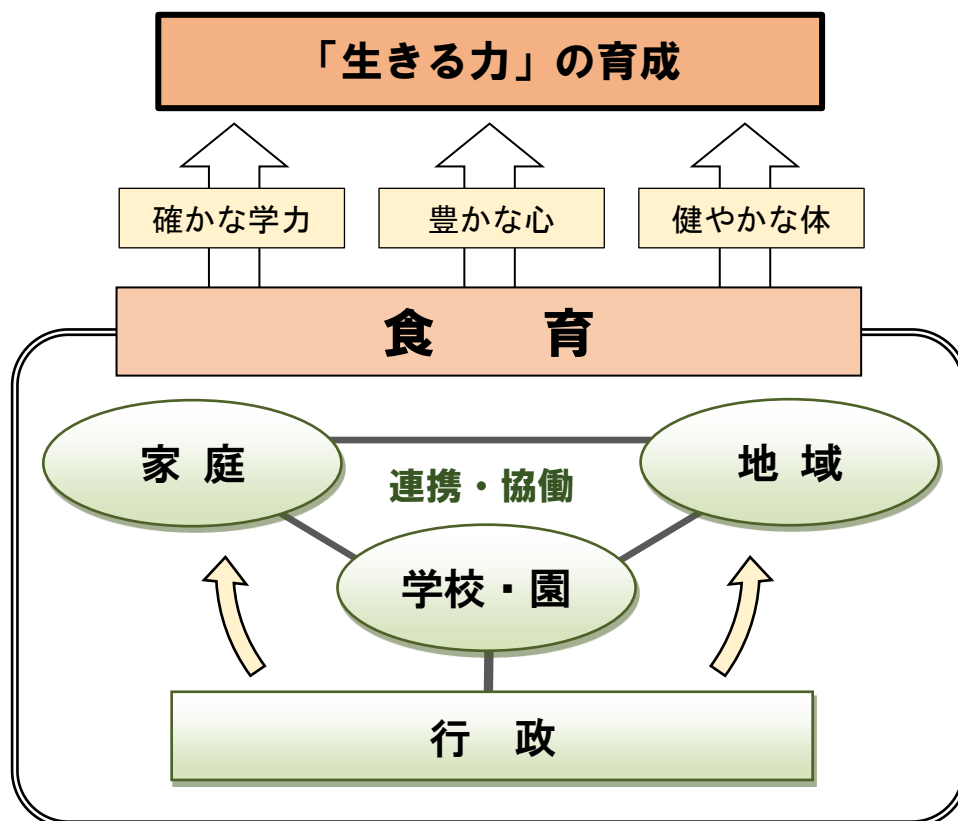
本市は、都市と農村、消費地と生産地という両方の地域特性があります。それを支える豊かな自然と気候・風土や田園・里山風景は、心豊かに生きていく三田の子どもたちを育てる力をもつ財産です。地域ならではの恵みを大切に、人とのつながり、地域とのつながりを深め、食育を体系化し、計画的・継続的に進めていくことが重要です。

「生きる力」を育む

三田の教育



本市教育委員会では、教育の基本理念を“夢を育て、人をはぐくむ学びのまち さんだ”と定め、「めざす子ども像」を“自分が好き、人が好き、このまちが好き、夢に向かって歩むさんだっ子”として掲げています。この実現に向け、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育むため、学校・園、家庭、地域、行政が連携・協働し、食育を推進します。



2 計画の目標

(1) 基本目標

学校・園における食育を通して、次代を担う子どもたちが、生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性と生きる力を育むために“基本目標”を次のように掲げます。

基本目標

食を楽しみ 食でつながり よりよく生きる さんだっ子

(2) めざす子ども像

食育の基本目標の実現に向けて、次のように**3つのめざす子ども像**を示します。

食の基礎・基本となる内容の定着を心がけ、子どもたちが、食に関する適切な知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できるよう食育を推進していきます。

◆ 生活リズムを整え、からだによい食べ方ができる子 ◆

朝食をとることや早寝早起きなどの基本的な生活習慣は、自立した学習習慣の形成につながり、将来の健康をつくる基礎となります。また、不足しがちな栄養素を考えながらバランスのよい食事をとることで、心身ともに健やかな成長が期待できます。一緒に食べる人と食事を楽しむことを通して、食事のマナーや人間関係形成能力を身に付け、からだによい食べ方ができる子の育成をめざします。

◆ 食の大切さがわかり、感謝と思いやりの心をもつ子 ◆

食品の品質・安全性・栄養素などの情報について関心をもつことは、食の正しい知識・情報に基づいて、自ら判断できる能力につながります。無駄なく調理することや残さず食べることは、食べものの大切さに気づき、食べものの命や生産にかかわる人々への感謝の心を育みます。また、郷土食や季節の料理、伝統的な料理は、食文化の理解を深め、先人を尊重する心を育みます。食の大切さを学ぶことを通して、豊かな人間性を育みます。

◆ 三田の恵みをかみしめ、心豊かに生きることができる子 ◆

ふるさと三田で暮らす人々や豊かな自然に関わり、地域の特産物や地場野菜の学習を通して、生活の知恵や地産地消のよさを知ることができます。三田の恵みを大切にし、「食べること」や「食べもの」に関わる様々な学びを通して人とつながり、円滑な人間関係を築く力を育みます。ふるさと三田のよさに気づき、よりよく生きることができる子の育成をめざします。

第IV章 計画の展開

1 食育推進に向けた役割

(1) 学校・園の役割




① 学校・園全体で取り組む食育の推進

幼稚園においては、豊かな食の体験を積み重ね、食への関心を育み、食を営む基礎を培う食育を実践していきます。

小・中学校においては、給食の時間をはじめ、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動など学校教育活動全体を通じて、食育に取り組みます。そのためには、全ての教職員が食育に関心をもって、食の大切さを認識し、「食育の目標」を理解することが大切です。

さらに、食育推進においては、学校・園と家庭、地域との連携が必要です。望ましい生活リズムやマナーを身に付ける基礎的な場である家庭へ積極的に働きかけ、連携して食育に取り組みます。また、食に関する関係機関や区・自治会連合会など地域住民による団体との連携を図り、幅広い領域にわたる食育の学習を深めるとともに、食育に関連する行事等を行う時には、地域住民に発信し、連携と協働に努めます。

●三田市食育推進計画に基づいた具体的な取組

	<p>健やかな暮らしを支える食育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食に関する指導の<u>全体計画及び年間指導計画に沿った食育</u>の実践 ・<u>規則正しい生活やバランスの良い食生活</u>の啓発 ・<u>調理実習、調理体験</u>を通じた指導 ・<u>歯みがき指導</u>の実施
	<p>次世代につなぐ食育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>農業体験や栽培体験</u>の実施 ・<u>共食の重要性</u>についての啓発 ・<u>食物アレルギーへのマニュアル</u>に沿った対応 ・給食の<u>残食を減らす</u>取組の実施
		

② 学校給食を生きた教材として活用した食育の推進

地域の特色を生かした学校給食について、その意義や役割を理解するとともに、学校給食を教材として活用した食に関する指導を発達段階に配慮しつつ計画的・継続的に行うことが大切です。より効果的な食育実践となるように、栄養教諭や調理師がその専門性を生かし、コーディネーターとしての役割を担い、食育の充実を図ります。

●三田市食育推進計画に基づいた具体的な取組

基本目標 1
健やかな暮らしを支える食育の推進

- ・歯と口の健康づくりの推進（よくかんで味わう食べ方の推進）
- ・食べ方指導（自分が食べられる量・残さず食べる習慣）
- ・栄養講話の充実
- ・バランスのよい食事の指導（例）○バランスのとれた食事 ○まごわやさしい献立
- ・カムカム献立などを活用した健康教育

基本目標 2
次世代につなぐ食育の推進

- ・給食レシピの提供や献立の提示
 - 三田産地場産物についての学習
 - 三田の食材の日
 - 米飯給食を中心とした和食のよさ
 - 行事食と食文化
 - 三だし・和食の日
- ・学校給食を活用した指導の充実
 - └ 「3色食品群」：食べものの働きによって、黄・赤・緑の3色（※7）に食品群をわける方法

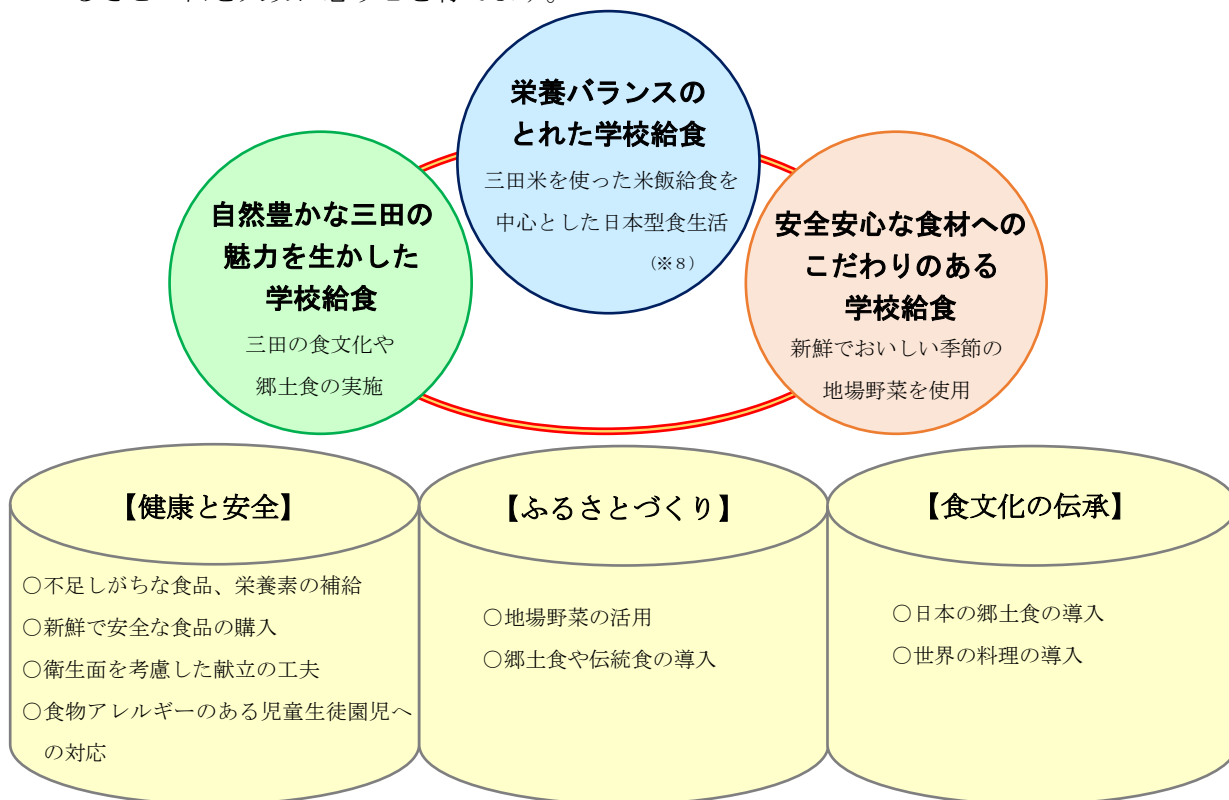
基本目標 3
食育推進のための体制整備

- ・三田産農産物を使った給食や行事食を取り入れた給食の活用
- ・食の正しい情報の収集及び家庭への情報発信（給食だより・食育だより）

地域の特徴を生かした学校給食について

自然豊かな三田の特徴を生かし、三田米や四季折々の地場野菜、特産物を使用して、栄養バランスのとれた、安全で安心な学校給食を提供しています。

学校給食を通じて子どもたちの食への興味・関心を高め、楽しい食生活を実感させ、ふるさと三田を大切に思う心を育てます。



学校給食献立の3本柱

（※7）黄＝主にエネルギーのもとになる（炭水化物・脂質） 赤＝主にからだをつくる（たんぱく質・カルシウム）
緑＝主にからだの調子を整える（ビタミン・ミネラル）

（※8）ごはんを中心としながら、主菜・副菜に加え、適度に牛乳・乳製品や果物が加わった、バランスのとれた食事

(2) 家庭の役割

家族や仲間が食卓を囲み、コミュニケーションを図ることは、食の楽しさを実感することができ、心の豊かさをもたらすことができます。家庭は、規則正しい食習慣、食に関する知識や実践力を身に付ける基礎的な場となります。「早寝、早起き、朝ごはん」を心がけ、生活リズムを整えること、1日3食規則正しく食べること、バランスのよい食事を実践することが大切です。また、季節感が薄らいでいる食卓の現状から、三田の四季を感じ、三田の恵みを大切にすることにより、健康の保持増進や心豊かな食生活を送ることができます。

(3) 地域の役割

本市は、阪神地域にありながら、豊かな自然に恵まれる環境にあります。地域で生産された安全で新鮮な産物に関心を持ち、地産地消の推進を図りながら生産者と消費者がお互いの暮らしを支え合い、地域自給力の向上をめざす必要があります。

地域は、食の情報や食文化を共有することができる場です。学校・園、家庭と地域がつながり、様々な食の経験を通して、子どもや若い世代に食習慣や食文化を伝え、豊かな地場産物を受け継いでいくことが大切です。

(4) 行政の役割

自然豊かな三田の恵みを教育財産として生かし、食を大切にする心や郷土愛の育成につながる食育推進を図ります。また、学校・園において積極的に食育を推進できるよう学校給食を教育活動の一環として位置づけ、地域の特色を生かした学校給食をめざします。さらに、子どもの食の体験を豊かにし、望ましい食習慣を身に付けるため、学校・園、家庭、地域と連携しながら食育を推進します。

三田市食育推進計画に基づいた具体的な取組例

<基本目標1 健やかな暮らしを支える食育の推進>

- ・子どもへの調理実習、調理体験を通じた指導
- ・デジタルツール等を活用したバランスのよい食事の情報発信
- ・家族構成に応じた食料品等の備蓄に関する啓発



<基本目標2 次世代につなぐ食育の推進>

- ・地場産物の普及啓発活動の実施（絵手紙コンクールの開催など）
- ・給食での三田産農産物の活用推進
- ・共食の場の支援
- ・学校給食に関する情報発信
- ・学校給食展の開催
- ・行事食の啓発と情報発信
- ・食物アレルギー対応マニュアルの整備



<基本目標3 食育推進のための体制整備>

- ・食育研修会の開催
- ・「三田市の学校・園における食育推進計画」の見直し及び推進
- ・食育関係団体の情報発信



2 学校・園、家庭、地域、行政が連携した食育の推進

子どもたちに食事の大切さ、喜び、楽しさを知らせ、心身の成長や健康の保持増進を図るとともに、食に関する正しい知識と望ましい食習慣の形成につなげるため、学校・園、家庭、地域との連携が大切です。“食べチャオさんだ！”を合言葉に展開する食育推進事業に取り組み、食育を推進します。



給食

給食を教材として活用した指導を行うことにより、食について興味関心をもたせ、食のもつ多様な側面に気づかせる。

○ひとくちおしゃべりタイム

(給食時間の指導)

○学校・園で育てた野菜を給食に活用

○給食食材情報等と動画配信



体験

給食への理解を深め、コミュニケーションを図り、食の大切さについて考える機会とする。また、三田でとれる季節の食材を味わいふるさと三田のよさを知る。

○親子体験の充実



“食べチャオさんだ！”食育推進事業



作品募集

絵手紙等を募集し、三田のよさを感じ、郷土愛を育むことをねらいとする。また、学校園の食育活動を地域に発信する。

○食に関する作品募集と展示



啓発

三田の学校給食の魅力や食育の大切さを広く市民に啓発する。また、動画やレシピカード、ホームページを充実させ、家庭や地域に発信する。

○啓発活動の実施 (学校給食展、展示など)

○ホームページの充実

○給食献立レシピの提供

○三田のご当地グルメの開発

さらに、学校・園、家庭、地域、行政が連携・協働して取り組むため、

“食べチャオさんだ！”で『やさしい食育』～ふるさととつながり はぐくむ 三田のめぐみ～をキャッチフレーズに、食育を推進していきます。

食育のキャッチフレーズ

“食べチャオさんだ！”で『やさしい食育』
～ ふるさととつながり はぐくむ 三田のめぐみ ～



野菜をおいしくもりもり食べましょう



三田の恵みをもぐもぐ味わいましょう



しっかりと生活リズムを整え、いきいき
元気にすごしましょう



いっしょに「食」を楽しみ、こころとからだ
をすくすく育てましょう

第V章 計画を推進していくために

1 食育の目標設定

(1) 食育の視点

三田市の学校・園において『食を楽しみ 食でつながり よりよく生きる さんだっ子』を食育の基本目標に掲げています。学校・園において食育の目標設定を行う場合は、学校・園の教育目標をふまえて、園児・児童・生徒の実態や、前年度の取組の整理と評価結果から目標を設定します。

また、「めざす子ども像」の実現に向けて、食育の3つの視点を「食べ方」「食べもの」「ふるさと」と設定します。この3つの視点をふまえ、食育の具体的な内容について、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動など、学校教育活動全体を通じて学びます。

～食育の3つの視点～

「**食べ方**」

について学ぶ




「**食べもの**」

について学ぶ

「**ふるさと**」

三田について学ぶ

<食育の視点・食育の項目・食育の内容>

食育の視点	食育の項目	食育の内容
【食べ方】 	①健康	○食事と成長 ○食事と健康 ○食事のリズムと生活習慣 ○バランスのよい食べ方（主食・主菜・副菜、食品群、栄養素） ○運動とそれに見合った食事量 ○早寝・早起き ○朝ごはん ○食物アレルギー 等
	②食の楽しみ	○楽しく食べること ○朝昼夕の食事と間食 ○食材の選択・購入 ○共食（交流給食・ランチルーム給食） 等
	③マナー・共食・感謝 ／食文化[食事]	○食事のマナー ○家族・友人との団らん ○感謝の気持ちをもって食べる ○和食の食事スタイル・おはしの文化 等
【食べもの】 	④自然・環境 / 栽培	○食べものを通した命のつながり ○食べものと環境 ○育てる楽しみ ○収穫の喜び ○作物の生長 ○食べものの恵み ○生き物のつながり 等
	⑤生産・消費 / 調理	○生産（農業・水産漁業・畜産業） ○流通・消費・廃棄 ○食料の需給 ○安全な食べもの ○調理する楽しみ・喜び ○もぐもぐタイム・ペロリ週間（食品ロスを考える） 等
	⑥食文化[食べもの]	○地域・日本の食文化（行事食） ○各国の食文化（世界の料理） ○和食のよさの体験 等
【ふるさと】 	⑦地産地消	○地域の自然・人と食べもの ○地産地消 ○農園・農業体験（三田の恵みに親しむ） 等
	⑧人間形成	○生産者の思いと工夫 ○生産者の実態 ○地域の人とのつながり ○ふるさと三田のよさ発見 等

(2) 具体的な食育の目標設定

食育の推進にあたっては、それぞれの学校・園に合った目標を設定することが望ましいと考えられます。食育の3つの視点「食べ方」「食べもの」「ふるさと」において、必要とされる食育の項目や内容を絞り込み、各学校・園の地域や園児・児童・生徒の実態に合った目標を設定します。

以下に、本計画に基づく発達段階に応じた食育の目標例を示します。

＜幼稚園、小・中学校における発達段階に応じた食育の目標例＞

基本目標 **食を楽しむ 食でつながり よりよく生きる さんだっ子**

生活リズムを整え、
からだによい食べ方ができる子
【食べ方】

食の大切さがわかり、
感謝と思いやりの心をもつ子
【食べもの】

三田の恵みをかみしめ、
心豊かに生きることができる子
【ふるさと】

＜幼稚園＞

- (食べ方) みんなと楽しく食べる【②食の楽しみ】
- (食べもの) 食べものに興味関心をもつ【④環境】
- (ふるさと) 野菜を育てたり、収穫したりするなどの体験活動を楽しむ【⑦地産地消】



＜小・中学校＞

	食べ方	食べもの	ふるさと
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなとなかよく楽しく食べることができる【②食の楽しみ】 ・感謝の気持ちをこめてあいさつすることができる【③感謝】 	<ul style="list-style-type: none"> ・食べものに興味関心をもつ【④環境】 ・栽培を通して人や自然とふれあう【④自然】 	<ul style="list-style-type: none"> ・三田でとれる野菜にふれ、食べるなどの体験活動を楽しむ【⑦地産地消】 ・三田の恵みに興味関心をもつ【⑧人間形成】
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・安全と衛生に気をつけて食事環境を整えることができる【①健康】 ・食事のマナーを考えて楽しく食べることができる【③マナー】 	<ul style="list-style-type: none"> ・食べものを通した命のつながりが分かる【④自然】 ・自分たちが食べるまでに、どのような人々が関わっているのかがわかる【⑤生産・消費】 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の農業について知り、三田の特産物や地域の生産活動、流通に関心をもつ【⑦地産地消】
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・食事に関心をもち、食事量と栄養のバランスのとれた食事の大切さがわかる【①健康】 	<ul style="list-style-type: none"> ・食べものを通した命のつながりや、自分の食生活を支えてくれる自然や人々の存在について理解する【④自然・環境】 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の風土や食文化に理解を深め三田の恵みに愛着をもつ【⑧人間形成】
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・三食食べることの大切さと食事バランスについて理解し、望ましい食事を選択することができる【①健康】 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の自然環境と食料生産の関連を理解し、生産者の努力と食べものの大切さに気づくことができる【⑤生産・消費】 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の生産者や三田の食の恵みに感謝する心をもつ【⑧人間形成】

2 食に関する全体計画の作成

(1) 食に関する指導の全体計画①

□ 18～19 ページ 図表 1 食育全体計画 (幼稚園)

幼稚園における食育は、幼稚園教育要領（文部科学省）における「健康」に位置づけられています。食育をより効果的に展開するため、三田市立幼稚園全体として食育の基本目標に沿って食育全体計画を作成しています。

□ 20 ページ 図表 2 食育全体計画①の例 (小学校)

□ 21 ページ 図表 3 食育全体計画①の例 (中学校)

小中学校における食育全体計画①は、食に関する指導の目標について、児童生徒・家庭・地域の実態や、目指す子ども像と一体化した形で作成します。ここでは、食育(食に関する指導)の全体計画例を示しています。なお、特別支援学校においては、例示を参考にしつつ、児童生徒一人ひとりの実態に応じた形で作成します。

(2) 食に関する指導の全体計画② (関連教科等の指導内容) ※小中学校のみ

小中学校において、食育に関連する内容について指導時期を調整し、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動、給食の時間、学校行事など）等と関連させて計画していきます。さらに、食育の目標達成のために、発達段階に応じた目標と実践内容との整合性を図るとともに、学年ごとの取り組みが分かるように一覧に表した年間計画を作成します。

《食に関する指導の全体計画②の例》

○○年度 食育（食に関する指導）の全体計画② ◇◇小学校（小学部）

教科等		4 月	5 月	6 月	...
各教科	社会	県の様子【4年】	私たちの生活を支える飲料水【4年】、高知に住む人々の暮らし【5年】	販売の仕事【3年】、日本の食糧生産の特色【5年】、狩猟・採集や農耕の生活【6年】	
	...				
	生活	がっこうだいすき【1年】	たねをまこう【1年】、やさいをそだてよう【2年】	—————▶	
特別活動	学級活動	給食が始まるよ【1年】	生活リズムをふりかえろう【3年】	夏休みの健康な暮らしについて考えよう	
	給食の時間	給食のきまりをおぼえよう 楽しい給食時間にしよう 季節の食べ物について知ろう	—————▶		
	...				
その他	家庭・地域との連携	給食献立表による情報発信、保健だよりの発行			
	保健指導 個別相談指導		朝食の大切さ、運動と栄養、食中毒予防に向けた啓発	ブラッシング指導【3年】	

図表1 食育全体計画例 (幼稚園・認定こども園)

基本目標

食を楽しみ 食でつながり よりよく生きる さんだっ子

小学校・中学校との連携

めざす子ども像

- ・生活リズムをととのえ、からだによい食べ方ができる子
- ・食の大切さがわかり、感謝と思いやりの心をもつ子
- ・三田の恵みをかみしめ、心豊かに生きることができる子

食育の視点

- 【食べ方】
- 【食べもの】
- 【ふるさと】

食育の目標

- みんなと楽しく食べる
- 食べものに興味関心をもつ
- 自分たちで野菜を育てたり、収穫したりするなどの体験活動を楽しむ

年齢	期	I 期(4~5月)	II 期(6~8月)	III 期(9~12月)	IV 期(1~3月)
3 歳児	ねらい	・食事の雰囲気慣れる。 ・食事の準備から片付けまでの流れを知る。 ・食事に必要な基本的な習慣・マナーを知る。	・食事を楽しみにする。 ・食事に興味をもち、準備や片付けを自分でしようとする。 ・いろいろな食べ物を知り、よく噛んで食べる。	・身近な人と一緒に食べることを楽しむ。 ・食事を通して自分でできることを増やす。 ・様々な食べ物の味に触れようとする。	・食べ物に興味や関心をもち、友達と一緒に食べる楽しさを味わう。 ・食事に必要な基本的な習慣・マナーを身に付ける。
	内容	・保育者や友達と喜んで食事をする。 ・保育者と一緒に手洗いや片付けをする。 ・食前、食後の挨拶や食具の使い方、正しい姿勢等を知る。	・保育者や友達と一緒に食事を楽しむ。 ・4, 5歳児が栽培活動や収穫、クッキングをする様子を見る。 ・野菜や花の生長を楽しみに世話をする。 ・食事に必要なことを覚え、保育者の声掛けや友達を見て進んで取り組む。	・保育者や友達と一緒に楽しい雰囲気の中で食事をする。 ・食事の準備から片付けまでの流れの中で自分でできることを増やす。 ・いもほり等を通じて、秋の旬の食材を知る。	・食べ物に興味や関心をもち、友達と会話しながら楽しく食べる。 ・慣れない食べ物や苦手な食べ物に少しずつ挑戦していく。 ・食事のマナーについて知り、自分から守ろうとする。
	援助のポイント	・食事に慣れることを大切に、安心できる雰囲気を作る。 ・食事の準備から片付けまでの流れを一つ一つ丁寧に伝え、興味や関心をもてるようにする。 ・保育者がモデルとなり、食事をする姿を視覚的に知らせる。	・異年齢との関わりを生かし、栽培物の収穫や調理を通して、食べ物への興味を育む。 ・食具の使用や準備、片付けを自分でしようとする姿を見守り、認めながら、食事への意欲につなげる。 ・食べ物をよく噛んで食べることが健康につながることを知らせ、喉に詰まらせることがないように安全面に留意する。	・机の配置を工夫するなど、保育者や友達と机を囲んで、皆で一緒に食事をする楽しさを味わえるような雰囲気作りをする。 ・正しい食習慣が身につくように働きかけ、自分でできることを増やしていけるようにする。 ・いろいろな食べ物に興味をもち、自主的に食べようとする姿を認めていく。	・健康と食べ物に興味や関心をもち、苦手なものにも挑戦できるように働きかけて自信へとつなげていく。 ・大きくなることへの喜びに共感しながら、正しい食事のマナーを確かめていく。 ・少しずつ箸に移行できるように、保護者と連携を図る。

栽培(例)	内容
	⑤夏野菜の苗植え → 収穫
	⑤じゃがいも・玉ねぎ・いちごの世話 → 収穫
	⑤黒豆種まき定植 → ⑤黒豆・枝豆収穫
	④⑤さつまいも植え → ③④⑤さつまいも収穫
	⑤田植え → ⑤稲刈り
	③④ミニひまわり等の種まき → ③④種取り
	⑤千日紅等の種まき → ⑤花摘み(ドライフラワー用)
	⑤柿 → 干し柿作り
	④いちご・玉ねぎ植え → ④⑤冬野菜の種まき → 収穫
	④じゃがいも植え
	③④チューリップ・ムスカリ等球根植え
	③…3歳児 ④…4歳児 ⑤…5歳児

年齢	期	I 期(4～5月)	II 期(6～8月)	III 期(9～12月)	IV 期(1～3月)
4 歳児	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に慣れ、保育者や友達と一緒に食べる楽しさを感じる。 ・栽培物を見たり、触れたりすることにより関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と楽しく食べる。 ・夏野菜の生長に興味をもち、収穫を喜ぶ。 ・歯の大切さや歯の正しい磨き方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事のマナーを身につけながら、楽しんで食べる。 ・体は食べ物から栄養をとっていることを知り、食材や食事を用意してくれる人への感謝の気持ちをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな食べ物と体との関係に興味をもち、友達と一緒に食べる楽しさを味わう。 ・進級することへの喜びと期待をもつ。
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいクラスでの食事の仕方を覚え、保育者や友達と楽しく食べる。 ・食事の準備の仕方をもう一度確認する。 ・5歳児の栽培活動の様子に興味をもって見たり、夏野菜の苗植えや花の種まきをして世話をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物と体の関係に関心をもち、友達と楽しく食べる。 ・夏野菜の生長や収穫の様子を見る。 ・夏野菜の収穫を喜び、旬の材料で調理をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や姿勢など、気持ちよく食事をするためのマナーを身につける。 ・食べることを通して冬の野菜を知り、収穫できる野菜が夏とは違うことに気付く。 ・やきいも大会や収穫祭などに参加し、簡単な調理をして、様々な人とかかわる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の行事をきっかけに、地域の食文化に触れる。 ・5歳児から給食当番や栽培活動を引継ぎ、自分たちで活動していく。
	援助のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の準備から片付けまでの流れと一緒に確認していく。 ・好き嫌いや食べる量を把握し、楽しい雰囲気の中で食事ができるようにしていく。 ・5歳児が栽培活動をしている様子を見たり、夏野菜の苗を植え、共に世話をしながら、生長の様子や、気付いたことに共感していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・器の持ち方、箸の持ち方に気をつけ、自分で意識できるようにする。 ・5歳児と一緒に栽培物の世話や観察することを通して、気付きや驚きに共感していく。 ・歯の仕組みや健康について考える機会を作り、よく噛んで食べることで、食べ物が自分の身体の栄養になることを知らせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を十分に動かした後の空腹感を感じ、食事が楽しみになるような雰囲気を作る。 ・いろいろな秋の実りを味わったり、色や形などに興味を持つことで、自然の恵みに感謝する気持ちを伝えていく。 ・5歳児と一緒に冬野菜の世話をするを通して、生長の喜びや収穫への期待を膨らませていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や季節と関連させて日本の伝統と食文化を伝えていく。 ・苦手な食べ物も体の栄養になることを知らせ、食べてみようとする気持ちをもてるようにする。 ・風邪の予防のために、バランスのよい食事をとる大切さについて話し、健康に対する意識を高めるようにしていく。
年齢	期	I 期(4～5月)	II 期(6～8月)	III 期(9～12月)	IV 期(1～3月)
5 歳児	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に楽しんで食事をし、正しい食事の仕方を身につける。 ・様々な体験を通して食べることへの意欲をもつ ・野菜を栽培し、収穫を期待しながら身近な食材に親しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏野菜の生長に関心をもち、世話をすることにより、収穫の喜びや季節感を味わう。 ・栽培物の世話を年下の友達に教えたり、収穫と一緒に楽しんだりすることで、年長児としての自覚をもつ。 ・正しい手洗い、歯磨きで自ら衛生に気をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旬の食材から季節感を味わうことを楽しむ。 ・食の活動を通して発見を楽しんだり考えたりし、それを生活に取り入れようとする。 ・健康な生活リズムや食べ物と健康の関係を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物や食に関わる人への感謝の気持ちをもち、食を楽しむ。 ・日本特有の食文化や地域の食文化に触れ、食に対する興味、関心を広げる。 ・心身の成長を実感し、好き嫌いをなく食べることの大切さに気付く。
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・食事時間の流れやマナー、準備や配膳の仕方を再確認する。 ・友達と一緒に夏野菜の畑づくりや苗植えをする。 ・昨年より引き継いだ野菜を育て、生長に気づいたり世話をしたりし、収穫する楽しさを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の世話をしながら生長を楽しみにしたり、収穫した夏野菜を自分たちで調理し、味わうことを楽しむ。 ・衛生面に関心をもち、進んで手洗いや歯磨きをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物と体の関係を理解し、楽しく食事をする。 ・体を十分に動かして遊び、心地よい空腹感を感じる。 ・やきいも大会や収穫祭などを計画し、年下の友達やお世話になった人たちに調理した料理を振る舞うことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物大切さを知り、感謝の気持ちをもって食事をする。 ・伝統料理などの食材や意味を知る。 ・冬を元気に過ごすために、バランスよく食べる大切さを知り、好き嫌いをしないで積極的に食べる。 ・就学への期待をもち、4歳児に当番活動や栽培活動を引き継ぐ。
	援助のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の量や好き嫌いなどを把握し、無理なく楽しい食事の時間になるように配慮する。 ・給食だよりを活用して、食材の役割を知らせながら、好き嫌いをなく食べようとする意欲を育てていく。 ・野菜の生長に興味をもてるよう、一緒に観察しながら気付きに共感していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分達で育てた夏野菜を収穫し、調理して食べることで、食べ物と体の関係に関心をもてるようにする。 ・夏野菜の収穫や調理する経験を通して、いろいろな食材の種類、旬があることなどを知りながら、苦手な野菜にも関心をもつ機会にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食べることで力がわき、丈夫な体が作られていくことを知らせていく。 ・暑さが和らぎ、運動遊びが多くなることから、食欲が旺盛になり、苦手な食べ物に挑戦したり、残さず食べようとする姿を認めたりしていく。 ・自分達が種を蒔き、育てた野菜が生長し、収穫できる喜びが感じられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本やお話を通して、日本の伝統文化の中で大切にされてきた食について興味をもてるようにする。 ・機会を捉え、食材の生産者や調理してくれる人に感謝の気持ちをもてるような話をしていく。 ・元気な体を作るための栄養について知らせ、自分の健康を意識できるようにする。

(図表2) 食育全体計画様式 (小学校・小学部)

食に関する指導の全体計画

三田市立 ●●小学校



学校教育目標	「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をもつ子どもの育成
--------	-------------------------------

児童・家庭・地域の実態
<ul style="list-style-type: none"> ○ やせ傾向にある児童が多い。 ○ 体力テストの結果が全国平均値を下回っており、体力向上が課題である。 ○ 朝食を毎日食べる児童は●% ○ 好き嫌いのある児童が多く、給食で野菜の残食率が高い。 ○ 校区には農家を営んでいる家庭が多い。

目指す子ども像
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分や人を大切にし、誇りをもって生きる子 ・ 身近なことに興味関心を持ち、課題と向き合い、深く学ぼうとする子 ・ 人とのつながりの中で、何事にも粘り強く取り組む子 ・ 自分自身の生き方を考え、自らの可能性に挑戦する子

食に関する指導の目標 (テーマ)	食を楽しみ 食でつながり よりよく生きる さんだっ子
------------------	----------------------------

	各学年の発達段階に応じた食に関する指導の目標		
	低 学 年	中 学 年	高 学 年
食への方	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなとなかよく楽しく食べることができる。 ・ 感謝の気持ちをこめてあいさつすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全と衛生に気をつけて食事環境を整えることができる。 ・ 食事のマナーを考えて楽しく食べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事に興味をもち、食事量と栄養のバランスのとれた食事の大切さがわかる。
食へもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食べものに興味関心をもつ。 ・ 食べものの名前がわかる。 ・ 栽培を通して人や自然とふれあうことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食べものを通した命のつながりがわかる。 ・ 自分たちが食べるまでに、どのような人々が関わっているのかわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食べものを通した命のつながりを知り、自分の食生活を支えてくれる自然や人々に感謝の気持ちをもつことができる。
食への心	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三田の野菜にふれ、食べるなどの体験活動を楽しむ。 ・ 三田の恵みに興味関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の農業について知り、三田市周辺の生産活動や流通に関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の風土や食文化への理解を深め、三田の恵みに愛着をもつ。

食育推進組織	学校長、教頭、栄養教諭、教務主任、養護教諭、給食（食育）担当、家庭科主任、社会科主任、体育科主任 ※必要に応じて、保護者代表、学校医 等
--------	---

家庭・地域との連携	○学校だよりでの周知 ○保健だよりでの啓発 ○関係者評価の実施 ○◆◆（地域団体）による食に関する授業の実施 ○PTAによる保護者啓発活動 ○◆◆（地域農家）との連携 ○給食時間におけるオープンスクールの実施 ○食育参観の実施
-----------	--

(図表3) 食育全体計画様式 (中学校・中学部・高等部)

食に関する指導の全体計画

三田市立 ●●中学校



学校教育目標	「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をもつ生徒の育成
--------	------------------------------

児童・家庭・地域の実態
<ul style="list-style-type: none"> ○ やせ傾向にある生徒が多い。 ○ 朝食を毎日食べる生徒は●% ○ 好き嫌いのある生徒が多く、給食で野菜の残食率が高い。 ○ 校区には農家を営んでいる家庭が多い。

目指す子ども像
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分や人を大切にし、誇りをもって生きる子 ・ 身近なことに興味関心を持ち、課題と向き合い、深く学ぼうとする子 ・ 人とのつながりの中で、何事にも粘り強く取り組む子 ・ 自分自身の生き方を考え、自らの可能性に挑戦する子

食に関する指導の目標 (テーマ)	食を通じた健康づくりを正しく理解し、食の大切さ、喜び、楽しさが分かる
------------------	------------------------------------

	各学年の発達段階に応じた食に関する指導の目標		
	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
食 べ 方	<ul style="list-style-type: none"> ○ 三食食べることの大切さと食事バランスについて理解し、望ましい食事を選択することができる。 ○ 楽しい会食を通して、望ましい人間関係を築く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 栄養素の基本的なはたらきを理解し、バランスのとれた食事をとることができる。 ○ 中学生期の食生活と将来の健康との関わりを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 健康について自ら管理できる能力を身につける。
食 べ も の	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本の自然環境と食料生産の関連を理解し、生産者の努力と食べものの大切さに気づくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本における稲作の歴史的な位置づけを理解できる。 ○ 基礎的な調理技術を身につけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食品の安全・衛生的な取り扱いを実践できる。
こ こ ろ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の生産者や三田の食の恵みに感謝する心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の生産者や三田の食の恵みに感謝し、郷土への関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ふるさと三田の恵みに感謝し、食文化や歴史と食習慣との関連を考えることができる。

食育推進組織	学校長、教頭、栄養教諭、教務主任、養護教諭、給食（食育）担当、家庭科主任、社会科主任、体育科主任 ※必要に応じて、保護者代表、学校医 等
--------	---

家庭・地域との連携	○学校だよりでの周知 ○保健だよりでの啓発 ○関係者評価の実施 ○◆◆（地域団体）による食に関する授業の実施 ○PTAによる保護者啓発活動 ○◆◆（地域農家）との連携 ○給食時間におけるオープンスクールの実施 ○食育参観の実施
-----------	--

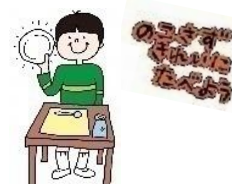
(3) 実態に応じた様々な目標の設定例 (※)

学校・園	○食育テーマ ・食に関する指導の目標	学年	発達段階に応じた食育の目標		
幼稚園	○楽しく食べて元気な子 ・ 楽しく食べる意欲を育む ・ 食べる楽しさを味わう ・ 食べものへの関心を高める ・ 体の調子に合わせて食べる	3歳児	○食べものに興味や関心をもつ。 ○友達と一緒に食べる楽しさを味わう。 ○栽培や収穫の体験を楽しむ。		
		4歳児	○食べものに関心をもち、食べる楽しさを感じる。 ○異年齢や地域の人々などに親しみをもって関わろうとする。 ○収穫した食材にふれ、食べる喜びを感じる。		
		5歳児	○食べものとかからだの関係に関心をもつ。 ○異年齢や地域の人々とつながって生活する喜びを感じる。 ○栽培活動を通して、収穫の喜びや生命の大切さに気づく。 ○クッキングを通して、作る楽しさや人の役に立つ喜びを感じる。		
小学校	(知) ・ 健康は自分で守るという意識を持ち、正しい食生活をしようとする「自己管理能力」を身につける。 (徳) ・ 楽しい食事の工夫や体験活動から得た思いやりと感謝の心、体を大切に作る豊かな心を育む。 ・ 自然の恵みに感謝し、環境に配慮する態度を育てる。 (体) ・ 健康で充実した生活ができる健やかな体をつくるために、望ましい食行動をとることができる態度を育てる。	低学年	○自分の食生活に興味を持つことができる。 ・ 生命の大切さと自然のすばらしさに気づく。 ・ 好き嫌がなく、何でも食べる。		
		中学年	○自分の生活を見つめることができる。 ・ 地域につながる食生活を知る。 ・ 食べものの働きを知り、食生活に役立てようとする。 ・ 食べものの働きを考えて、好き嫌がなく、食べることができる。		
		高学年	○自分の食生活に生かすことができる。 ・ 食生活を見直し正しい食生活を心がけることができる。 ・ 食糧に関わる人々の工夫や努力を知り、感謝し、応えることができる。 ・ 自分の健康を考えながら質や量を考えることができる。		
中学校	○食べ方は生き方 ～身につけよう食の知識、育もう豊かな心～ ・ 命の大切さを知り、心豊かに健康に生きることができる生徒 ・ 食と環境を関連させて考えることができる生徒 ・ 食に関する正しい知識をもち、自己管理のできる生徒		・ 自然界の食物連鎖の仕組みと自分の存在について考え、自然を大切にすることを養う。 ・ 食料の生産・流通・消費について広い視野に立って理解を深める。 ・ 思春期の栄養について理解し、バランスのとれた食事のとり方がわかる。 ・ 自分の健康を食事・運動・休養(睡眠)の生活習慣から考え、望ましい食生活を送る。		
特別支援学校 (小学部)	楽しもう(食べることを) 親しもう(食べものに) つくってみよう(育てた野菜で)	低学年	あいさつをして たのしくたべよう	たべたもののなまえを おぼえよう	おやつをつくって みよう
		高学年	よくかんで たのしくたべよう	たべもののなまえを おぼえて、たいせつにしよう	そだてたやさいで りょうりをしよう

※ 幼稚園は、三田市立幼稚園における食育全体計画の基本形より抜粋。

※ 小・中・特別支援学校は、「学校における食育実践プログラム(改訂版)」

(平成 25 年 3 月県教育委員会発行)26 ページより抜粋



3 めざす子ども像に沿った具体的な取組（例）

本市の学校・園における食育の“基本目標”である『食を楽しみ 食でつながり よりよく生きる さんだっ子』の実現に向けて、食に関する指導の実践テーマ等を設定し、学校・園や児童生徒・園児の実態に合わせて工夫し、食育を実践します。食育のキャッチフレーズ“食べチャオさんだ！”で『やさしい食育』（14 ページ）を活用しましょう。

各学校・園の実態に応じて作成した食育（食に関する指導の）全体計画を共有し、設定した食育の目標達成に向けて取り組みます。

下記の表に、「めざす子ども像」「食育の3つの視点（15 ページ）」「食育の項目」を対比し、主な題材名と関連教科について示しています。



▼主な題材名、関連教科 ～学校・園の実態に応じて取り組みましょう～

食を楽しみ 食でつながり よりよく生きる さんだっ子

◆生活リズムをととのえ、からだによい食べ方ができる子		
	食育の項目	題材名【関連教科等】
【食 べ 方】	① 健康	1日の生活のしかた【小3保健】 じょうぶな体をつくろう【小4保健】 朝食をステップアップしよう【小6家庭】
	② 食の楽しみ	すききらいなく何でも食べよう【幼・小1学活】 食べることの大切さ（五大栄養素）【小5家庭】 1食分の献立作成【小6家庭】 食べもののゆくえ（消化と吸収）【小6理科】 生活習慣病の予防【小6保健】 バランスのよい食事【中2家庭】
	③ マナー・共食・感謝 ／食文化〔食事〕	給食センターの紹介【小1学活】 食事マナーの達人【小1学活】 今と昔の食事【小4国語】
◆食の大切さがわかり、感謝と思いやりの心をもつ子		
	食育の項目	題材名【関連教科等】
【食 べ も の】	④ 自然・環境 / 栽培	給食ができるまで【小2生活】 いろいろなやさいをしろろう【小2生活】 この1食のために【小3道徳】 防災意識をたかめよう【小4社会】
	⑤ 生産・消費（調理）	さつまいもをおいしくたべよう【小1生活】 お弁当作り【小6家庭】 食べ物のむだゼロ！（食品ロス）【小4学活】 食べものの選び方【中2家庭】
	⑥ 食文化〔食べもの〕	昔から伝わる食文化【小3学活】 兵庫の食べもの【小4社会】 みそ汁についてしろろう【小5家庭科】 ごはんの大切さをしろろう【小5家庭科】

◆三田の恵みをかみしめ、心豊かに生きることができる子		
【ふるさと】	食育の項目	題材名【関連教科等】
	⑦地産地消	三田の農作物（特産物）【小3 社会】 黒大豆博士になろう【小3 総合・社会】 生産者と給食交流【特別活動】
⑧人間形成	三田の農作物（作る人の思い）【小3 社会】 三田市内めぐり【小3 社会】 “食べチャオさんだ！” 絵手紙コンクール “食べチャオさんだ！” 給食センター探検隊	

4 デジタル食育の取組（例）

(1) 動画配信を活用した栄養教諭の実践事例



当日の給食調理の様子や食事マナーについての動画を作成し、給食時間に配信を行う。5分程度の動画を繰り返し配信することで、各クラスの都合に合わせて視聴できる。

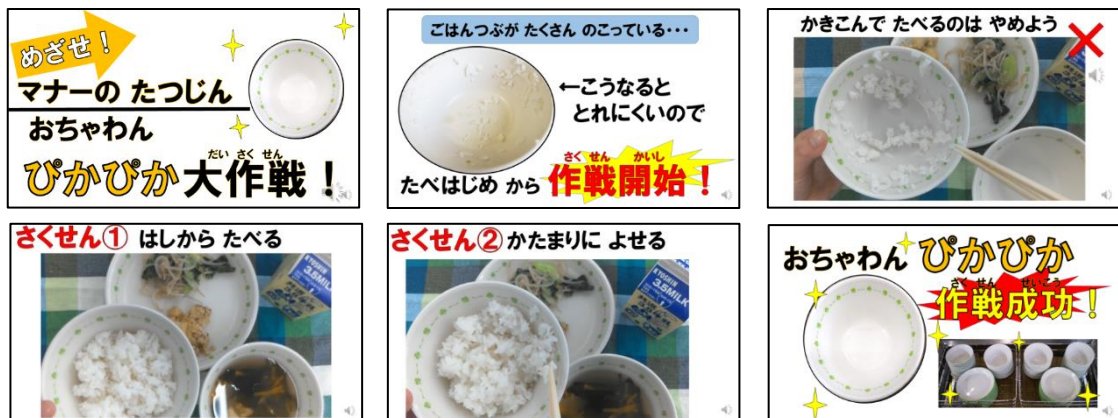
【動画のテーマ設定例】

日	テーマ	日	テーマ
1 金	三田ポーク	11 月	食器の置き方
4 月	あじの竜田揚げ	12 火	チンゲン菜のごま油いため
5 火	モロヘイヤ	13 水	夏野菜のさっぱりミートスパゲティ
6 水	ピタパン・鶏肉とレバーの大豆がらめ	14 木	夏野菜カレー
7 木	5月給食ノートのコメント紹介	15 金	6月7月給食ノートのコメント紹介
8 金	七夕・夏野菜	19 火	マーボー豆腐

- ① 当日の給食で、注目してほしい献立や食材について、クイズや調理作業の様子を交えながら紹介する。



- ② 食事のマナーについて、テーマごとに指導していく。



(2) デジタルコンテンツを活用した各教科等での学習の取組例

ICT が普及した昨今では、インターネットやタブレットのアプリなどで多くのデジタルコンテンツが存在しており、食育の分野においても同様である。

デジタルコンテンツを活用する学習には、「どこからでも」「いつでも」食育に取り組めるという良さがある。参加者はインターネット回線さえあれば、どこからでも他者とつながることができる。また、好きな時や必要な時に視聴できたり、調べたり、楽しんだりすることもできる。

例えば、以下のような取組を行うことで、準備や移動といった手間を省き、身近に環境が整っていない状態でも食育をすすめられる。

① 動画やデジタル資料を活用した食育



教科等	学習活動
社会科 生活科 等	<ul style="list-style-type: none"> ○食の大切さを学ぶ活動 ○食についての知識を獲得する活動 ○地域の特産品を知ったり、生産者の話を聞いたりする活動

<コンテンツ例> ※令和5年現在

☆ 食育関連デジタル展示 動画「食育を学ぼう」（農林水産省）
<https://www.maff.go.jp/j/heya/tenzi/digital/shoku.html>



☆ パンフレット「知ってる？日本の食料事情」（農林水産省）
 「ニッポン食べもの力見つけ隊」（農林水産省）
 動画「食料自給力ってなあに？」（農林水産省）
https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/panful.html



☆ JA 兵庫六甲公式 YouTube チャンネル（JA 兵庫六甲）
<https://www.youtube.com/@JA-qt3vm/videos>



☆ “ちゃんと食べる”が分かる 食育の時間 +(プラス)
 (日本マクドナルド株式会社)
<https://www.chantotaberu.jp>



② SNS を活用した食育



教科等	学習活動
家庭科 等	<ul style="list-style-type: none"> ○生産者の SNS アカウントに感想などを投稿し、交流する活動 ○作った料理や収穫した食材などについて発信し、他者から感想や評価をもらう活動

③ アプリを活用した食育



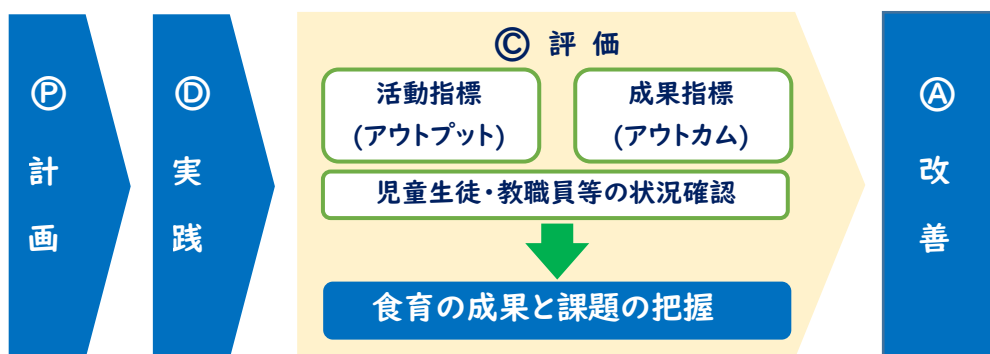
教科等	学習活動
家庭科 等	<ul style="list-style-type: none"> ○食事管理アプリを用いて食事を見直す活動 ○栄養素についてゲームなどを通じて学ぶ活動

5 食育実践の評価

本計画に沿って食育を実践していくにあたって、PDCAサイクルに基づいた食育や評価を行うことが大切です。食育実践後は、各学校・園の食育推進委員会等において、学期末や学年末等に食に関する様々な活動を振り返り、その内容から食育の成果と課題を把握し、評価を行います。そしてよりよい実践のために、評価内容を検証し、次年度の計画の見直しと改善を図ります。

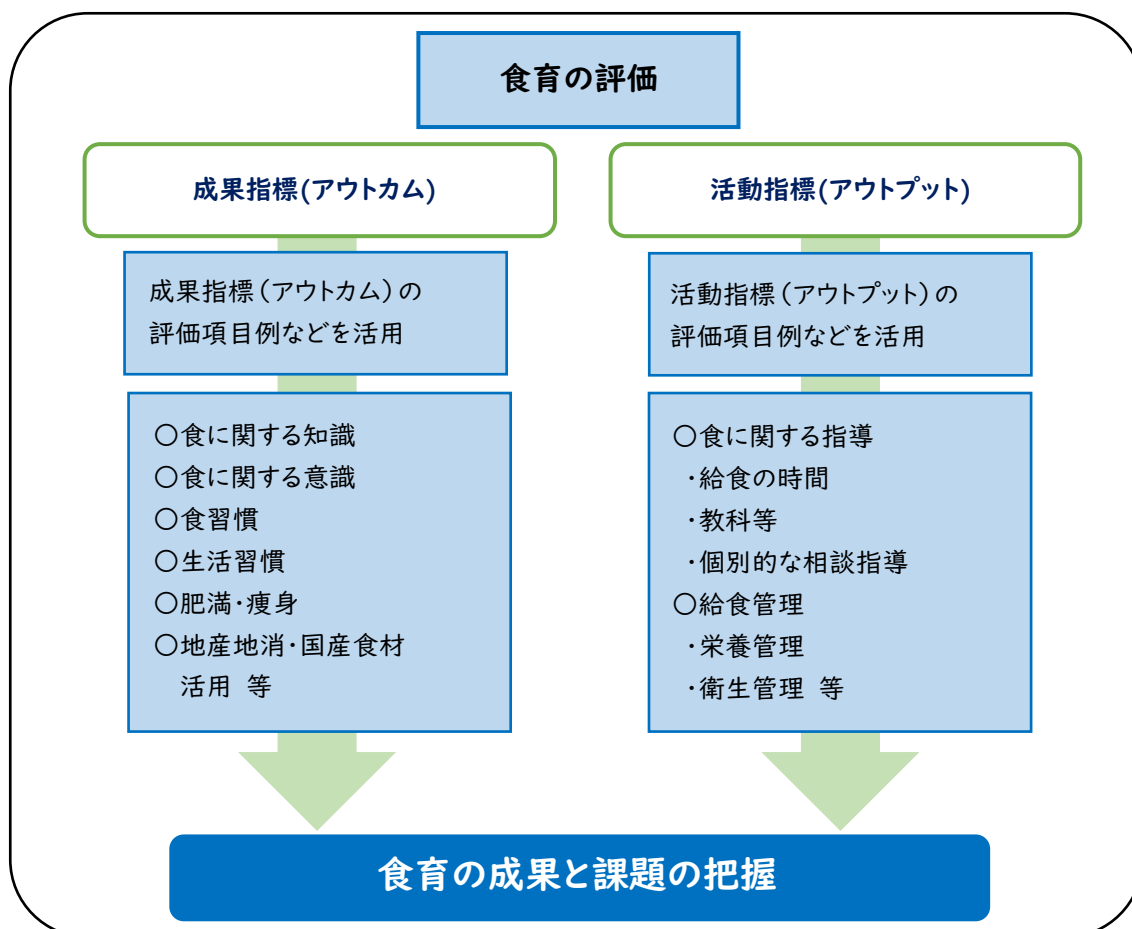
また、本市の食育について、三田市食育推進会議が設置され、地域全体で総合的な食育推進を図る体制が整備されています。三田市教育委員会においても、学校・園、家庭、地域、行政が連携・協働して食育推進をするための体制作りを進めています。食育推進の評価として、定期的に行う食生活実態調査等に基づき、取り組み状況を確認し、客観的に評価を行います。

(1) PDCAサイクルに基づいた食育の評価



「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育」 H29.3 文部科学省より

(2) 食育の評価における指標



「食に関する指導の手引き - 第二次改訂版 - 」 H31.3 文部科学省より

《成果指標（アウトカム）の評価項目例》

各学校等の実情に合わせて、以下の指標の中から必要な項目を選択、加除修正、又は各学校独自の指標を設定します。また、対象とする学年や様式、評価の方法等についても、適宜、設定します。

成果指標（アウトカム）の例		前年度実績値	目標値	今年度実績値	評価 ¹⁾	備考（取組状況や参考となる事項等） ²⁾
食に関する知識の習得状況	知識テストや授業等による知識の習得状況など	—	—	—	1 2 3 4	
食に関する意識の改善状況	食育に「関心がある」と回答した割合	●%	●%	●%	1 2 3 4	
	「朝食をとることは大切である」と回答した割合	●%	●%	●%	1 2 3 4	
食習慣の状況（朝食・給食摂取、食事内容等）	朝食を「毎日食べる」と回答した割合	●%	●%	●%	1 2 3 4	
	給食で配膳されたものを残さず食べられた生徒の割合	●%	●%	●%	1 2 3 4	
生活習慣の状況（睡眠時間、排便習慣等）	睡眠時間を●時間以上確保できている割合	●%	●%	●%	1 2 3 4	
肥満・痩身の状況	肥満度 20%以上の出現率	●%	●%	●%	1 2 3 4	
	肥満度<20%以上の出現率	●%	●%	●%	1 2 3 4	

【評価】 1：できた 2：おおむねできた 3：あまりできなかった 4：できなかった

<文部科学省ホームページ>

第7章 学校における食育の推進の評価



<兵庫県ホームページ>

食育ハンドブック（中学校版）



【参考】

- ・「食に関する指導-第二次改訂版-」平成31年3月 文部科学省
- ・「食育ハンドブック(中学校版)」令和2年3月 兵庫県教育委員会ほか

《活動指標（アウトプット）の評価項目例》

各学校等の実情に合わせて、以下の指標の中から必要な項目を選択、加除修正、又は各学校独自の指標を設定します。また、対象とする学年や様式、評価の方法等についても、適宜、設定します。

区分		評価指標	評価（特記事項）	
食に関する指導	食に関する指導 教科等における	教科・特別活動等における食に関する指導が推進され、機能しているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 全体計画に基づいて授業を実施できたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 教科等の学習内容に「食育の視点」を位置付けることができたか。	1 2 3 4	
	食に関する指導 給食の時間における	給食の時間を活用した食に関する指導が推進され、機能しているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭と学級担任が連携した指導を計画的に実施できたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 学級担任による給食の時間における食に関する指導を計画どおり実施できたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 献立と教科等の学習内容をつないだ指導を実施できたか。	1 2 3 4	
	相談指導 個別的な	偏食、肥満・痩身、食物アレルギー等に関する個別的な相談指導が行われているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 偏食傾向、肥満傾向、過度の痩身、食物アレルギーを有する等の生徒に適切な指導ができたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭、学級担任、養護教諭、学校医などが連携を図り、指導ができたか。	1 2 3 4	
	連携・組織	教員間の連携体制が構築され、食に関する指導が行われているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 家庭への情報発信を行ったか。	1 2 3 4	
<input type="checkbox"/> 食育推進委員会等が定期的開催されたか。		1 2 3 4		

各区分の評価指標に対して、（細目）の指標の評価等に基づいて評価する。

【評価】 1：できた 2：おおむねできた 3：あまりできなかった 4：できなかった
評価の大区分については、「食に関する指導」と「連携、組織」に「給食管理」を加えて、評価指標を適宜、設定してもよい。

(3) 評価から改善へ

次年度に向けた改善に活かすためには、評価結果の考察では、どのような取組を実施した結果なのかという視点も必要になります。

また、数値目標が達成できた場合は、どういう活動が達成につながったのかを考察します。そして、次年度に向けて、目標値をあげるか、あるいは他の目標に変えるかを検討します。一方、達成できなかった場合は、活動指標の評価や活動途中の進行管理状況を含めて、全体計画及び各教科等の指導内容を振り返り、次年度の計画の見直し・改善を行います。

参考資料（抜粋）

1 第2次三田市食育推進計画（令和5年度～令和9年度）

＜基本理念＞

市民一人ひとりが健全な心身を培い、豊かな人間性を育むために、様々な関係者と連携を図りながら、多様な暮らしに対応した生涯切れ目のない食育を推進するとともに、健全な食生活を送るための基盤となる食環境を支え、人と人が食を通じてつながり、次世代に三田の恵みをつなぐことを目指し、下記を本計画の基本理念とします。

【基本理念】 **食で創る健やかなさんだ ～次世代につなごう三田の恵み～**

＜基本的視点＞

近年、デジタル化に対応した食育の推進が国において推進されている一方で、食育においてはリアルな体験も重要な視点であることから、本計画の取り組みにおける横断的な視点として、下記を基本的視点に定めます。

【基本的視点】 **リアル体験 ^{クロス} × デジタル食育**

＜基本目標＞

基本目標		主な取り組み
基本目標 1	健やかな暮らしを支える食育の推進	○規則正しい生活の推進 ○バランスのよい食事の推進 ○歯と口の健康づくりの推進 ○災害時に備えた食に関する知識の普及啓発
基本目標 2	次世代につなぐ食育の推進	○地産地消の推進 ○農と関わる機会の充実 ○共食の普及啓発 ○和食文化の普及啓発 ○食や環境に関する知識の普及 ○食品ロス削減の推進
基本目標 3	食育推進のための体制整備	○就学前教育・保育施設、学校、事業者、関係団体、行政などの連携の推進 ○食育に携わる人材育成の支援

2 学校における食育実践プログラム（改訂版）（兵庫県教育委員会）

《食育の目的》

食育の目的の第一は、食への関心を高め、**食に関する適切な知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることにある。**食育を通して、**心身の健康の増進**を図り、**豊かな人間性と生きる力を育む。**

3 食に関する指導の手引（文部科学省）

《食に関する指導の目標》

- **食事の重要性**（食事の重要性、食事の**喜び、楽しさ**を理解する。）
- **心身の健康**（心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける。）
- **食品を選択する能力**（正しい知識・情報に基づいて、食物の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける。）
- **感謝の心**（食物を大事にし、食物の生産等にかかわる人々へ感謝する心をもつ。）
- **社会性**（食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける。）
- **食文化**（各地域の産物、食文化や食にかかわる歴史等を理解し、尊重する心をもつ。）

4 学校給食法（第二条）

《学校給食の目標》

- 一 適切な栄養摂取による**健康の保持増進**を図ること。
- 二 日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、及び**望ましい食習慣を養う**こと。
- 三 学校生活を豊かにし、**明るい社交性及び協同の精神を養う**こと。
- 四 食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについての理解を深め、生命及び**自然を尊重**する精神並びに**環境の保全に寄与する**態度を養うこと。
- 五 食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め、**勤労を重んずる態度を養う**こと。
- 六 我が国や各地域の優れた**伝統的な食文化**についての理解を深めること。
- 七 **食料の生産、流通及び消費**について、**正しい理解**に導くこと。

5 学習指導要領（文部科学省）

《小学校学習指導要領》

第1章 総則 第1-2-(3)

特に、**学校における食育の推進**並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、体育科、家庭科及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること。

《中学校学習指導要領》

第1章 総則 第1-2-(3)

特に、**学校における食育の推進**並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、保健体育科、技術・家庭科及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳科及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること。

《特別支援学校小学部・中学部学習指導要領》

第1章 総則 第2-(3)

特に、**学校における食育の推進**並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、小学部の体育科や家庭科（知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校においては生活科）、中学部の保健体育科や技術・家庭科（知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校においては職業・家庭科）、及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び自立活動などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること。

6 食育の目標設定に関する資料（食育の視点・項目の設定資料）

文科省（食に関する指導の手引）

県教委（学校における食育実践プログラム（改訂版））

県教委（食育ハンドブック）

「食に関する指導の目標」

- ①食事の重要性（喜び、楽しさ）
- ②心身の健康
- ③食品を選択する能力
- ④感謝の心
- ⑤社会性
- ⑥食文化

「食育目標の枠組み」県教委

- ①成長・健康増進・栄養
- ②喜び・楽しさ・生活リズム
- ③人・家族とのつながり
- ④生産～消費 購入・調理・廃棄
- ⑤自然の恩恵としての食べもの
- ⑥文化としての食べもの

「食育目標の設定例」県教委

- ①健康・栄養
 - ②食の楽しみ/生活リズム・共食
 - ③生産～消費/食料の需給
 - ④自然/環境 ⑤食文化
 - ⑥調理 ⑦栽培
- 【食べ方】①②
【食べもの】③④⑤
【体験】⑥⑦

7 幼稚園教育要領（文部科学省）

《第2章 ねらい及び内容》

健康

〔健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う〕

1 ねらい

(3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。

2 内容

(5) 先生や友達と**食べることを楽しみ**、食べ物への興味や関心をもつ。

(6) **健康な生活のリズム**を身に付ける。

(7) 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、**食事**、排泄などの生活に必要な活動を自分でする。

(9) **自分の健康に関心**をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。

3 内容の取扱い

(1) 心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、幼児が教師や他の幼児との温かい触れ合いの中で自己の存在感や充実感を味わうことなどを基盤として、しなやかな心と体の発達を促すこと。……

(4) 健康な心と体を育てるためには**食育を通じた望ましい食習慣の形成**が大切であることを踏まえ、幼児の食生活の実情に配慮し、和やかな雰囲気の中で教師や他の幼児と**食べる喜びや楽しさを味わったり、様々な食べ物への興味や関心をもったりする**などし、食の大切さに気付き、**進んで食べようとする気持ち**が育つようにすること。

(5) **基本的な生活習慣の形成**に当たっては、家庭での生活経験に配慮し、幼児の自立心を育て、幼児が他の幼児と関わりながら主体的な活動を展開する中で、生活に必要な習慣を身に付け、次第に見通しをもって行動できるようにすること。

環境**2 内容**

(3) 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。

(5) 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。

3 内容の取扱い

(2) 幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、幼児の心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、幼児が自然との関わりを深めることができるように工夫すること。

(3) 身近な事象や動植物に対する感動を伝え合い、共感し合うことなどを通して自分から関わろうとする意欲を育てるとともに、様々な関わり方を通してそれらに対する親しみや畏敬の念、生命を大切に**する気持ち**、公共心、探究心などが養われるようにすること。

三田市の学校・園における食育推進計画
— さんだっ子 食べチャオ! 食育推進計画 —

令和6年(2024年)3月作成

三 田 市 教 育 委 員 会

